

平成 26 年 1 月 21 日（火） 10:00～12:00

高知会館 3 階「平安」

（1）産業成長戦略観光分野の平成 25 年度の進捗状況等について

○A 委員

一年間の議論が分かりやすくまとまっており流れがよく見える。県の努力がメディアでも出ているし、「楽しまん！はた博」の開催など地域観光の取り組みでは、広域観光組織の在り方も含め課題が認識でき、今後の道筋が見えたことは非常に良かった。地域の基盤ができてきたと思う。

無料公衆無線 LAN の整備と海外プロモーションの強化が必要。無料公衆無線 LAN など受入側としての整備の拡大が海外プロモーションにも役立つと思う。

○事務局

10 年後には県外観光客入込数 435 万人以上を目標としているが、国内旅行者は今後縮小していくので、海外からの観光客を上乘せしていくことが重要と認識している。海外プロモーションの強化や無料公衆無線 LAN の整備は今後ご意見を踏まえて取り組んでいきたい。

○B 委員

海外観光客向けのパンフレットは英語、韓国語、中国語のものがあるのか？

○事務局

中国語繁体、中国語簡体、英語、韓国語の 4 種類ある。

○C 委員

無料公衆無線 LAN は必須だと思う。また、海外観光客向けに高知駅や高知空港にタッチパネル式の観光情報や公共交通機関の乗り方が分かるもの（デジタルサイネージ）を整備できればよいのではないかな。

○事務局

海外からも個人旅行者も入ってくるようになってきたので、観光情報等を取得していただける手法を検討していきたい。

○D 委員

全国の多くの地域が食で PR しているので、もう一段上を目指すためには、他県とは違

うひとひねりした企画を進める必要があるのではないか。例えばスポーツツーリズムと食を絡め、高知の食が体づくりにつながるなどの売り出し方があるのでは。

おもてなしについても多くの地域でやっているのに、高知ならではの感動を与えることができるものが必要ではないか。

施設によっては外国人観光客向けの英語パンフも用意されていないところもあるので、さらにツール作りが必要。また、海外に対しては旅行会社と組むことも重要だが、ニッチなターゲットに向けた取り組みも必要。

○事務局

外国人観光客向けのツールの整備については、民間事業者とも協働し、今後もしっかりやっていきたい。

食を活かした取組については、平成 26 年度の改定のポイントの説明のなかでさせていただく。

○E委員

四国八十八カ所霊場開創 1200 年の取組について、四ツ創のパンフはあるが高知県内の霊場を深掘りしたエージェント向けの発信ツールが必要では。

スポーツ大会や教育旅行については、教育機関の方々がエージェントに委託して実施することも多いので、エージェントへのアプローチも重要である。

教育旅行の誘致は各県が積極的に行っているのに、しっかりと取り組むべき。

○事務局

四国八十八カ所霊場開創 1200 年については、県内の特別感のあるものを一覧にしているが、集客できるテーマであるので来年度に向けてエージェント向けのパンフ作成等をアドバイザー会議等で検討していきたい。

大会誘致や会議誘致の際のエージェントの活用についてはおっしゃるとおりであり、教育委員会や健康・福祉など各部局とも連携し、情報収集にも努める。エージェントが入ることによって大会前後のエクスカッションが増えることにもつながる。

教育旅行については、地域コーディネート機能の中には、観光アドバイザー等を活用した取組を進めている。広域観光組織の中で教育旅行のニーズもあるので、教育旅行を通じて広域観光組織の強化も図っていく。今後教育旅行の基盤が整った地域を目指し、平成 27 年度に教育旅行の受け入れをしているフォーラムの開催を実施する予定である。

(2) 産業成長戦略観光分野の平成 26 年度の改定のポイントについて

○F委員

普通のことを普通にやってもトップランクにはなれない。おもてなしについては、

高知に来られる方が何をしてほしいと思っているかに着目するなど、おもてなし先進県を目指さなければならない。客層は様々であるが、例えばWEBで情報を取得する観光客に対しては、スマートフォンやタブレットのアプリを準備してあげる手法などが考えられる。

また、高知が持っているリソースの中で食と自然は他にはない魅力である。食と体験型観光やスポーツをあわせた発信はできないか。ファミリー向けに体験型観光を楽しんでいただきながら、食も味わっていただくことにより2泊、3泊としていただけるような取組が必要ではないか。

東京や大阪あたりでは駅の看板スペースが空いている状況があり、広告単価も下がっていると聞いている。広告単価や費用対効果などを検証し、広告でのプロモーションも検討してはどうか。

○事務局

おもてなしについては、観光客の様々なニーズを捉えたおもてなしを今後も提供していく。なかでも高知家の食卓県民総選挙は、観光客が最も欲しがっている情報である地元の人がお薦めする店舗情報を提供できる県になろうとして実施している取組であり、今後も広くアピールしていく。無料公衆無線LANやアプリについては、事業者等と連携し取組を進めていく。

情報発信については、龍馬パスポートの行動履歴から、例えば春には花関連の施設を訪れる方が多い、夏には家族で体験型観光をする方が多いなどという結果が出ているので、この分析結果を情報発信にも活用している。ターゲットを明確にした効果的な情報発信についてはここ2年間務めてきたところではあるが、今後も取組を強化していく。

博覧会は広告中心であったが、平成24年度、25年度はプロモーションに係る予算を効果的に使うために、高知の情報を発信し、無料や少額の経費で雑誌やテレビで取り上げてもらおうよう働きかけてきた。今後も発信する内容に応じて、広告やペイドパブリシティなどの手法をケースバイケースで検討し効果的な露出につなげていく。

○G委員

スポーツツーリズムが活性化されてきたのは、気候が良い面もあるが、施設整備がなされ高知県の条件が良くなってきたこともあると思う。

食とスポーツツーリズムを絡めると波及効果も大きくなると思われるが、チーム方針や選手によっては、食事の制限や気をつかわなければならない面もあるので、このようなことも考慮しなければならない。

○B委員

スポーツ合宿と、鮎取り体験や定置網体験など高知の豊富なバリエーションの体験型観光を組み合わせて発信してはどうか。

○H委員

ミレー展は2月から開催するが、最低でも6万2,3千人の集客がほしいところ。8月から四国トップで四国遍路展を開催する。これは2万人の集客を目指す。

高知県文化財団としては、4月から情報発信を強化していくこととしている。県外から客が呼べるものは県と連携しPRしていきたい。

ジオパークは認定から5年で更新があると思うが、どのような見込みか。また、東部博の宿泊面の対応はどうか。

また、首都圏から高知にきてもらうためには飛行機代が高いが、首都圏のLCCに対する取り組みはどうか。

○事務局

今年度から近隣県で週末の観光情報のテレビCMを流しているが、来年度も実施する予定であり、美術館の企画など県外から多くの観光客に来ていただけるようなものは連携してPRしていく。

室戸ジオパークの認定更新は平成27年度にあり、再審査が実施される。再認定にあたってはこれまでの活動が生きてくると思う。また、海外からの観光客を呼び込むことも一つの視点であるので、これからの取組も重要である。東部博での取組も評価につながると思う。

東部博に関して、東部地域には、大きな宿泊施設がないが、推進協議会等で議論し博覧会を実施する中でできるだけ地域に滞在してもらうことを進めていく。

LCCについてはこれまで関空を中心としていたが、成田を拠点とするANA系のエアバニラが地方との窓口を作るという情報もあり、関空と成田の双方を見据えて取り組んでいく。

○A委員

「食」の強みをブランド化するため、例えば調理師学校の生徒を教育旅行で誘致するなど他県にない取り組みが必要。

○C委員

県民全体の観光マインドを上げていく必要がある。観光関係者だけではなく観光の大切さを住民全体が知るべきだと感じる。観光教育を広めていくことも大事である。

また、例えば書道サークルなどカルチャーグループの旅行に対応するため、廃校施設の活用を提案してはどうか。

○I委員

スポーツの協会の人的ネットワークを通じて、スポーツツーリズムの取組の幅が広がり結果につながってきたので、今後も継続してスポーツツーリズムを推進していきたい。

また、四国八十八カ所霊場開創1200年について、竹林寺方面へのシャトルバス運行の議論もあるが、五台山には竹林寺と牧野植物園があるので、牧野植物園でのナイトツア

一の実施など新しい五台山の動きを今後検討していければ。

○E委員

教育旅行については、民泊を先生方が要望している状況もあるが、衛生面や事故対応など課題もある。民泊の推進だけではなく、地域での体験の後はホテルや旅館に宿泊することも併せて推進していく必要があるのでは。